

謹賀新年

昭和六年元旦

蒲生信用組合

蒲生村農會

役職員一同

謹賀新年

一月元旦

蒲生村家屋税調査委員

關根躬知

謹賀新年

一月元旦

澁谷富之助
澁谷辰五郎

謹賀新年

一月元旦

瓦曾根農事電化組合
代表者 横川市太郎

謹賀新年

一月元旦

中川重右
岩槻町林道

蒲生村時報

第八號

卷頭言

鈴木吉長

畏くも天祖 天照大神「豊葦原の瑞穂國は是我が子孫の王たるべき地なり、爾 皇孫就いて治むべし
寶祚の隆なること當に天壤と共に窮りなかるべし」と宣はせられ皇孫をこの國にお降し遊ばされまし
てから三千年、皇統連綿として世々相つぎ 今上陛下を以て 第百二十四代に亘らせられます。
上は億兆の宗家にましまし 常に仁愛の大御心を以て赤子を慈しみ給ひ、下は誠忠を旨として 皇室
を崇敬し奉る。

宇大國多しと雖も わが大日本帝國の如く萬世一系の聖天子を戴く 耀かしい國體を濟せるものは全
く世界にその比を見ることが出来ません。
此の大御代に生を受け人となつた私共は
いかでか渾心の赤誠を以て 皇恩の萬分の一に報ひ奉るの覺悟がなくて 良いものでせうか。

(六、二、一)

明治大帝御製

ちはやふる神の心になふらん

わが國民のつくすまことは

昭和六年一月廿五日印刷納本
昭和六年二月一日發行
埼玉縣南埼玉郡蒲生村瓦曾根一〇九八ノ二
編輯兼發行人 鈴木吉長
同縣同郡同村大字同四一番地
印刷人 柴本平三郎

非賣品

お互の幸福のために!!

有興 責任 蒲生信用組合

朝夕に食ふもの着物すべて皆

わが日の本の神のためもの

私達の生命が三度々々の食事によつて育まれて行くやうに私達の幸福は産業組合を利用することによつて實を結ぶのであります。

言ひかへれば産業組合は幸福を求むる爲の食事であります。

産業組合は神の心を其のまゝの相互救済を仕事としてゐます。共存同榮を旗じるしとしてゐます。

モット／＼お互は組合を利用いたしませう。

貯金にも!

御融通にも!

そして築きませう、共存同榮の理想郷を!!

時報會計報告 (昭和五年分)

支 出

- 一金拾貳圓也 時報第二號吾部印刷費
- 一金拾參圓七拾八錢 全第二號吾部印刷費
- 一金拾五圓九拾錢 全第三號 全上
- 一金拾五圓九拾錢 全第四號 全上
- 一金拾五圓九拾錢 全第五號 全上
- 一金拾五圓九拾錢 全第六號 全上
- 一金四圓拾錢 寫真版製作費
- 一金壹圓參拾錢 原稿用紙六百枚代
- 合計金九拾四圓七拾八錢

收 入

- 一金貳拾圓也 中野、大熊兩氏御寄付
- 一金貳圓貳拾參錢 蒲生村家の光會より御寄付
- 一金五圓拾貳錢 編輯部萩島力藏負擔
- 一金六拾七圓四拾參錢 全上 鈴木吉長負擔
- 合計金九拾四圓七拾八錢

右の通りで御座います

昭和六年二月

蒲生村時報編輯部

私の體驗した米多收穫

登 戸 濱 野 導 三 郎

富民協會の十石取に刺激されて私も一ツ精一ぱいの多收穫を思立ち村農會の萩島君と相談しました。ところが喜んで賛成し周到なる設計耕培まで親切丁寧に指導して下さいました。

又大日本人造肥料會社の芹澤技師が肥効試驗地の設計の爲に來駕せられたので、計劃を話しましたら喜んで共鳴し且つ肥料まで提供して下さいましたので一層力を得て勇躍其れに着始致しましたものゝ、中々簡單には行かなかつたのですが芹澤、萩島兩氏が時々見廻りして下さいたので非常に力強く感じました。爾來八ヶ月間人知れず苦勞を續けて來ました。十一月十八日反當玄米四石一合を實收した時の私の氣持は實に何とも云ひ知れぬ例ひ様のない嬉しさを感ぜました。この八ヶ月間の經驗を皆様に御傳へして米多收穫の御參考に供したいと思ひます。

一、設計と目標 何事によらず事をなさふとするには其の目標を定める事が必要であります。其所で富民協會では十石を目標としてゐるので私は今迄の經驗か

らなるべく大面積に應用出來る方法で十俵と定めました。以下記す事は此の目標に向つて行ふ事について萩島君と相談した設計であります。

二、品 種

凡て多收穫を期するには耐肥性耐病性の品種に依て行はなければならぬ事は申す迄ありません。依て試験場の成績と自作成績とを參照して中熟神力を採用する事に定め村農會採種圃より純系種を求めたのであります。

三、苗 代

昔から苗代七分とか半作とか云はれて居る様に苗の良否は收量を左右する最大の要素なので播種量、灌漑、排水、肥料、雜草拔取等に特に注意して健苗の育成に力めたのであります。

四、本田選定

土地の選定は、一、灌漑排水に至便なる事 二、土性良好にして豐壤なる事 三、耕土深き事 四、管理に便なる事 五、木蔭の出ぬ所の五項目を大體の眼目にして選定しました。以上五項目を具備した處は少く比較的これに適合した慈姑跡地で耕土八寸位ある自家から一町位の處をいらんだのであり升

五、肥料 肥料設計の良否は最も直接的な影響を及ぼすので此れは充分なる研究を行つたのであります。即ち窒素は慈姑跡故少しも與へず、燐酸、加里を多く施す様に尙酸性を中和する爲に石灰を加へて次の様にしたのであります。

石 灰

二〇%

日星強過燐酸石灰

一五%

大日本化成燐酸加里(カリホウス)

一〇%

燐 灰

三〇%

硫 酸 加里

五%

六、挿 秧 苗代育成日數四十日以上のもので成績がよいので四月十八日に播下したのである故挿秧期は六月一日と定め、其の方法は試験場の成績又は富民協會の競作田の成績によると小苗密植とありますが此れは除草に手間がかゝり大面積には應用出来ぬ故、畦巾九寸株間六寸に一二本宛夫婦植としこれなれば九寸に三寸にした一坪百三十二株と同じ株數となる譯であります。

七、除 草 中耕的除草に重きを置き田打車で一回手取二回行つたのであります。

以上が大體の設計であります。而して選定した田は前年慈姑を收穫してから排水し充分寒氣に曝露して風化作用を受けさせ、五月中旬に雜草を拔取深く耕し石灰を撒布して均平にし五月下旬更に耕し肥料全部を施しました。而して六月一日植代を播き萩島君と一所に田植を致しました。其から設計通り作業を行ひ毎日毎日見廻り灌漑排水に努めたのであります。然して矢候順調に恵まれ九月五日にぞろつと一齊に出穂を見ました。而して大暑及二百十日の兩度の生育も調査も芹澤萩島兩氏立會の上草丈四尺三寸八分、一株莖數二十一本、穗丈六寸八分七厘の成績を見ました。而して十一月五日全部刈取り稻架に掛け十一月十日拔落し莖干三日間干収七石四斗九合十一月十八日撥摺を行つた所丁度反當四石一合目標の十俵に漸くして到達致しました。右は私の僥幸にして得た十俵取の記録を作つた経験の大體であります。此れをして將來皆様の多收穫の參考とならば幸甚であります。末筆ながら芹澤、萩島兩氏の多大なる御後援を感謝致します。

通學道路の敷設を望む

瓦 曾 根 小 關 右 馬 三

子を持つ親として明暮其の子の無事息災を願はぬ者はない。漸く學校に通ふやうになれば其の上に學業成績も操行も人並以上になれかしと、出て行く後姿を見送りながらも祈るのが親の真情である。然るに近化の進歩につれて交通運輸のスピード時代となり道行くに者大なる恐怖時代となつた。大人でさへもうかうかど往き來出来ない時代となつた。況して両側に用氣堀をひかへた道を朝夕通ふ兒童の危険は日に増加するのものと思はれる。毎日毎朝「自動車に氣をつけて行けよ」と我が子の萬一を慮つて注意せぬ親は一人もなからう此の間用水堀に飛び込んだ自動車の運轉手が「あぶな

かつた子供をよけ損じて此の失敗を」といつてゐた。何れにしても通學兒童の危険は日に増加するものと思はなければなるまい。

此の際兒童を持つ父兄のお願として通學道路の敷設を熱望する次第であります。村當局並に有志各位の御配慮を煩はしたいと切望する次第であります。

これが敷設にあたつては幸にも現在國道の東側に適當の小道がある。これを整理されるならば容易に實現されるものと思ふ。重て村當局並に有志各位の御配慮を御願する次第であります。(五、一二、稿)

談 話 室

去る十二月廿六日本村消防組では點檢式を舉行席上越ヶ谷署長より成績良好なりとの講評を受けました。

◇ 昨年度の米收穫高は調査員方に御骨折を願つて調べた

結果左の通りであります。
梗五千二百四十一石、糯八百拾石で前年收穫高三千九百三拾四石に比して二千百拾七石の大増收を見ました然し御承知の如く米價は釣瓶落しの慘落でありました爲之を金額に換算すれば拾壹萬五千六百九拾四圓となり前年に比し却つて八千四百拾壹圓の減額となります

因に作付反別は梗が二百五十町四反歩、糯四十五町五反歩合計二百九十町九反歩にして一昨年より六町九反歩の減少でありました。

年末多忙のため月掛貯金の集金も怠り遅れ勝ちになりまして中には一兩月不参した向もありました。誌上を以て御詫び致します。(信用組合貯金係)

下組貯蓄會では貯蓄獎勵委員澁谷辰五郎氏外有志方の御骨折で國道改修工事に伴ふ準備として新に定額貯金を開始されました。同組の一月十五日現在貯金高は金六百卅五圓四錢となりました。

一月十日目出度入營された本村出身軍人の所屬部隊は左の通りであります。

歩兵第三聯隊七の一(東京麻布) 鈴木新太郎君
野戰重砲兵第四聯隊一の三(千葉縣四ツ街道) 中野藤吉君
歩兵第三聯隊一の三(東京麻布) 上機關銃隊
山崎 喜一君

教化彙報

●青訓査閱 昨年十二月十五日日本村小學校庭に蒲生川柳大相模の三訓練所の査閱行はる。査閱官加納少佐並に大澤縣視學。成績何れも良好。但川柳大相模に比し本村出席小數なるは甚だ遺憾とす。而して當日成績優良にして加納少佐より表彰せられしもの左の如し
株竹茂雄 森田喜平 中野健藏

●御眞影奉戴記念式 教育勅語渙發四十周年記念敬考會並に大根半坪競作品評會。十二月十八日蒲生小學校に於て開催。午前十時先づ 御眞影奉戴記念式舉行。續いて品評會審査長關農林技師の審査報告ありて賞狀賞品の授與あり。次に金井塚校長式辭、並挨拶、來賓中野村議の祝辭等ありて式を終り。正午より出席老人並に來賓に對し女教師並に高等科女兒の手にて調製のひるめしを供し、餘興にうつり兒童の唱歌舞踊並に關根躬知先生の落語あり。甘酒をすゝめ紅白の御供餅のひきものありて記念撮影の上敬老會を終りたり。

品評會の出品者百十五人。大根三百四十五個。關技師審査報告は極めて教育的にして將來の産業啓發に裨益

するところ甚大なるを思はしめたり。なほ東京日日新聞社は特に秋庭記者を出張せしめ一等森田正繁君を撮影翌日の紙上にかゝげられたり。

▲招待せし高齢者(●は出席 ○は代理出席)

(登) △内海 よし(九二才) 吉澤康太郎(八九才)

(蒲) 澁谷 との(八三才) 中野 なか(八一才)

●高山 あぐ(八二才) 中野 藤吉(八〇才) 中野 淺次郎(八〇才)

●鈴木留五郎(八〇才) 金子 やを(七九才)

●高橋 かく(七八才) 田中 ひで(七七才)

●淺井 くに(七七才) 中野 寅藏(七七才)

(瓦) ●森田 いち(八四才) ●海老原初太郎(八三才)

●中野 まき(八二才) ●細沼 むめ(七八才)

●中村 さく(七八才) 熊ヶ谷やう(七七才)

●山崎 まつ(八〇才) ○關根 よし(七九才)

▲品評會受賞者 (四等以下略)

一等 森田正繁 二等 中野すい 神谷雅子
三等 大熊公平 濱野壽恵治 高橋朗子 加藤重吉

澁谷みつ江

篤志寄付

●十二月廿五日高等科兒童十八名は金井塚校長に引率せられ越ヶ谷試験場を參觀
●入營兵送別會 一月一日青年團にて開催
●中村訓導出張 一月三日より全九日まで長野縣下學事視察のため

●東京日日新聞より 大根競作品評會一等受賞者へ優勝メダル壹個
●金井塚龜藏氏より全上賞品として 鐵製七輪壹個 大バケツ二個 柄杓五本 餅網二十個 龜の子タワシ 八十七個
●蒲生村時報發行費の内へ蒲生村家の光會より金貳圓 廿參錢
●全上蒲生辰榮會より金四圓拾參錢
●蒲生村尙善會善種金の内へ淺見英藏氏より金六十錢
●全上鈴木吉長氏より金五十錢
●全上秋島力藏氏より金五十錢
●青年團へ鈴木吉長より通學道路敷地測量用として杭 二百本

讀者欄

投稿歓迎!!

◇時報の新年號は實によく出来た。總體的に見て批判すべき處はない。村民雜誌としての時報が號を逐ふて良くなるのは何より嬉しい事だ。(東組中野基二)

◇新年號から本欄を設けて私共に解放して下さい。た事を感謝する。これから僕もごし／＼投稿します。(元一青年)

◇私は時報に感激の一人であります私共は時報によつてのみ村の狀勢を知る事が出来るのです。汝蒲生村時報よ冀くは健在なれ(一村民)

◇本誌も来る四月で滿一周年を迎へるのだ。其の間村民方の御同情によつて大過なくやつて参りましたものゝ何時も皆様の御期待に副ひかねる事を恥入つてゐます。どうぞ一層御叱正下さいまして村民雜誌としての指命を果さして下さいませ。

尙紙面の都合で俳壇を次號に廻しました事をお詫びします。(編輯村曉村)

貯金は

皆様の組合へ!!

有限責任 蒲生信用組合

組合長 清村善藏

▲當座貯金……日歩一錢二厘

▲据置貯金……日歩一錢四厘

▲定期貯金……年利六分

蒲生村時報

第九號

昭和六年三月十八日印刷納本
埼玉縣南埼玉郡蒲生村瓦曾根(六ノ二)
編輯兼發行人 鈴木吉長
同縣同郡大澤町三八四五
印刷 野吉之助

卷頭言 鈴木吉長

戰國時代に小身から起つて中國一圓を斬り從へた毛利元就といふ豪い大將がありました。山陰山陽は悉く自分の手に入れましたが、九州四國を始めとして東方の諸國には郡雄が雲の如く割據して天下の形勢は樂觀を許しませんでした。而も自分分は年老へて病床に横はる身となりましたので、或る日三人の子供達を枕邊に呼び寄せました。

元就は三人の兄弟に向つて各一本の矢を渡しそれを折つて見よと言ひました。三本の矢は苦もなくヒシ／＼と折れました。次に又も三本の矢を出し今度は三本一しよに結びつけて折つて見よと申しました。三人は代る／＼その矢を折ろうと試みましたが遂に折る事が出来ませんでした。一本の矢は折れても三本の矢は折る事が出来ないのです。

互に力を協せると小さな力でも侮り難い大きな力となるものです。信用組合は多くの人達が集つて資金を出し合ひ、そしてお互が不幸に陥つたとき、又は職業上の資本に不足を生じたとき、此所から資金を供給して相互救済を致します。十錢二十錢の零細な貯金も十圓、二十圓の少額の出資も纏れば生活を支い産業を興す偉大な力となります。

互に助け合ふ事が信用組合の理想であります！
お互はお互の爲に信用組合を助け育て、行かねばなりません！

(六、三六産業組合記念日)

奉祝
内親王殿下御降誕

昭和六年三月七日